

奈井江学園父母の会会報 No.12

2008年9月25日

- 障がい福祉計画と入所利用者意向調査：桑原正人
- 障がい福祉計画意見交換会の開催：事務局
- 9月の行事（にんまり通信から）
- 職員紹介：小島達弥・田野絵見里
- 平成20年度研修会の報告：事務局



障がい福祉計画と入所利用者

就労支援主任 桑原正人

障がい福祉計画とは？

障害者自立支援法により道や市町村が、障がいのある人が地域で自立して生活するため必要なサービス量や支援策について定めた計画です。

1. 地域生活支援体制の構築
2. 地域生活への移行を促進
3. サービス基盤の地域格差の縮小
4. 就労支援の強化

期間は18年度から20年度までとなっています。

道では、道民のご意見を参考とするとともに、市町村の見込んだサービス量などを摘み上げて「北海道障がい福祉計画」を作りました。「希望するすべての障がい者が地域で暮らせる社会」の実現を目指す、とされています。

今年度、北海道はこれらを検証し第二期北海道障がい福祉計画（21年～23年）を作成する予定です。

入所利用者意向調査とは？

この調査は、施設に入所生活しておられる方々にこれからの暮らしについての希望を相談支援センターが中心となりお聞きし（利用者説明会后、聞き取り調査、調査員は定員の10%の6名は相談支援センターから

委託された方、残り90%は学園からは須崎、桑原が行うようになっていきます。）、地域生活への移行に関する支援について北海道が検討資料とするために実施するものです。回答いただいた調査票の内容は、市町村にもお伝えいたします。

＊聞き取り調査は7月中で終了しています。時間を見つながら一人ひとり同意を取りながら今思っている素直な気持ちを聞いています。聞き取り調査をしてみて思った事は自分の想像より地域で生活したいと言う方が多かった事です。しかし、良く話を聞くと地域から学園に通って作業をしたいと言う声も多く地域への憧れを感じました。一番、自分が問題だなと思った事はグループホームに住んだことがない人に「どうですか？」「どっちがいいですか？」「どんなところに住みたいですか？」と聞いてもなかなか答えられないと思います。質問する前に口頭で説明したりグループホームのビデオを見せたりしてイメージをわかせていただいています、なかなか難しいと思います。

また、地域での不安、心配は沢山ありますが、利用者さんの気持ちを聞く第一段階としては大変参考になり大切な情報だと思います。

障がい福祉計画意見交換会の開催

父母の会事務局

北海道は先の「入所利用者意向調査」の調査結果の報告と障がい福祉計画の作成方針について、下記の日程で意見交換会開催します。多くの会員の参加をお願いいたします。申し込みは事務局まで。

空知支庁（岩見沢市）：10月26日（日）
道庁別館（札幌市）：11月8日（土）

9月の行事（にんまり通信から）

● 9月7日（日）「フライングディスク大会」

毎年恒例のフライングディスク大会！！今年は岩井さんが実力を認められ全国大会へ出場★（10月）桑原も北海道チームのコーチに任命され、当学園から2名全国大会に参加することになりました。

● 9月14日（日）「利用者交流会」

千歳の牧場へ行き、他の施設の方々と交流を深めてきます。今回は和之さんと木全さんが参加を予定しています。楽しい仲間と会えるかな？

職員紹介

支援員 小島達弥

就労班・椎茸部の支援員をしています小島達弥です。奈井江学園設立当初からこちらで働いておりますので、29年も経っていることに改めて感慨深い思いがいたします。当時を振り返りますと、何も分からず飛び込みましたので、手探り状態でしたが、研修や通信大学の福祉学部で勉強をしながら少しずつ知識と経験を重ね何とか現在に至りました。福祉法や制度が変わる度に我々支援員に求められる内容も厳しくなっています。が、『利用者の方々のお手伝いをする』という基本は不変です。若手のパワーにも助けられなが

ら一緒に頑張っていきたいところです。これからも宜しくお願いします。



調理員 田野絵見里

初めまして

今年の四月一日から奈井江学園の調理で働かせて頂いている田野絵美里です。

早いものでもう四ヶ月が経ちました。最初は利用者さんの名前と顔を覚えるのにとっても苦労しましたが、今では大分覚えコミュニケーションをとれるようになりました。

これからも、利用者さんと関わりを持ちながら、より良い食事を提供していけるように努力したいと思

います。これからもよろしくお願いします。



平成 20 年度見学研修会の報告

9月20日(土) 砂川希望学院を見学し、午後は希望学院施設長の堀川宏氏の講演を聴きました。

砂川希望学院は作業収入として4700万円、収益は140万円とのことです。写真の広大な畑の他水田も耕作しているとのことでした。参加者は14名、晴天に恵まれたのが何よりでした。

午後は、障害者自立支援法における「判定区分」の問題点についての講演でした。

質疑応答の中で、上坂福祉協会会長から福祉に関する情勢説明があり、また、芦別の参加者から知的、精神、身体の3障がい家族会の連携した活動が提案されました。



砂川希望学院の農場について説明中の渡辺事務長(中央右)

編集後記

しばらく休刊していた「奈井江学園父母の会会報」の発行を再開いたします。内容は情報を中心として、年3回の発行を目指します。この会報が福祉の現状を理解する手段の1つになりたいと思っております。